

伸学塾の提案〈ストーリー学習法で学ぼう〉 「つなげる意識が思考力のステージを上げる」

小学生

読解力と思考力の土台をつくるとき
つなげる意識が思考力を育てる（ストーリー学習法）

中学校で落ちこぼれる生徒の共通点は、読解力と思考力の未熟さにある。
読解力とは、文章の内容を正確に読みとる力。思考力とは、知識をつないで新しい発想を生み出す力。
勉強＝読書のフィンランドでは、どんな家庭にも500冊程度の本が置いてあり、小学校を卒業するまで父親が本の読み聞かせをする。本や新聞を読むとどんな良いことがあるのか。
考える材料としての言葉を増やすことができる。（言葉が少ないと思考も浅い。）
考えるバックボーンとしての知識が増える。
他者の気持ちや自分の未来への想像力が生まれる。
教科書の問題文の意味をとらえやすくなる。忍耐力や集中力が生まれる。
英語の重要性は論を持たないが、国語力以上の英語力は生まれない。
英語力はあとからでも追いつけるが、読解力・思考力はあとになるほど復活は困難を極める。
論理を言葉で表すのが国語なら、論理を記号で表すのが数学（算数）。
伸学塾の授業は、読解力と思考力（数学的思考力と国語的思考力）の土台を育てることを目標に行う。
問題文の意味をつかめるか（読解力） 途中式を正しく記せるか（論理的思考力）
算数は、計算の早い子が伸びるわけではない。筋道を追ってていねいに考える子が伸びる。百マスやそろばんは小3ぐらいで卒業しよう。
読解力・思考力は、スポーツでいえば、バネのあるしなやかな身体能力。

【推薦図書】

「AI vs 教科書の読めない子ども達」
「プログラミング教育は要らない」
「10歳までの読書量で決まる」

「算数と国語を同時に伸ばす方法」
「子どもを英語嫌いにならない!!の方法」
「学力の経済学」